

5 各部・各学年・各教科における目標及び手立て

	目 標	目標達成のための手立て
教務部	1 年間授業時数の確保と授業の充実	年間行事計画に基づき、バランスのとれた時数確保に努める。
	2 年間行事の精選及び円滑な運営	生徒の学習環境、自主活動等との調和のとれた行事となるよう各部・各学年との連絡調整に努める。
	3 諸表簿の整理・保管の徹底	諸表簿類を利用しやすいよう整理する。
	4 教育課程の研究と実施	生徒の実態に応じた類型制教育課程を研究し実施する。観点別評価の研究に努める。
	5 総合的な探究の時間・キャリアパスポートの研究と実施	各学年に応じた総合的な学習(探究)の時間(城岳プラン)・キャリアパスポートを研究し実施する。
	6 PTA活動・同窓会活動の活性化と、その充実・発展	PTA総会の諸準備と実施、PTA各部との連携、PTA新聞を発行する。
	7 地域社会や教育諸団体との密な連携と、本校の教育の充実	二中慰霊祭・城岳講座を実施する。
進路指導部	1 生徒個々の進路目標の実現に向けた取り組みを強化する。	(1) 学年会・各部・各教科と連携を図り、高校生活の各時期における具体的な目標づくりと自己学習力の向上をサポートする。 (2) 1学年から進路指導を積み上げていく体制をつくる。
	2 模擬試験データの活用を進める。	(1) 生徒自身が模試の見直しをすることによって、弱点強化が図れるように助言する。 (2) 全職員に模擬試験のデータを提供し、学習指導の充実に向けて活用するように勧める。
	3 学習習慣の定着を図るための指導を強化する。	(1) 課題を自分の力でしっかりと取り組むように指導する。 (2) 学習目標を設定し、PDCAを意識した取り組みができるようにサポートする。
	4 PTA・同窓会との連携を図る。	(1) 進路だより・進路学習会・職員及び生徒研修会・PTA進路学習会等を活用して情報の提供を充実させると共にPTA・同窓会との連携を強化し、指導の充実を図る。 (2) 同窓会館の活用の促進、及び同窓会のネットワークを活用する。
	5 進路指導に関する情報収集と研修を進める。	(1) 新課程入試に関して大学入試センターなど各機関からの情報収集を行い、生徒・職員への情報発信に務める。 (2) 新課程入試に関する研修会に積極的に参加し、収集した情報を共有する。
生徒指導部	1 全職員の共通理解のもとに意思の疎通を図り生徒指導にあたる。	学年会や進路指導部との連携を密にする。
	2 基本的な生活習慣を確立させることによって豊かな知性、学力、たくましい体力、精神力、自主性、創造力、協調性に沿って考え行動する心を育てる。	勤怠指導、服装容疑指導、ルール遵守を徹底する。
	3 学習活動、部活動、特別活動への自主的、積極的参加の気運を高める。	(1) 定期的に部活動集会や部長会、中央委員会等を実施する。 (2) 朝のSHR開始前に携帯・スマホや身なり、その他の規律に関する呼びかけに取り組む。
	4 交通安全指導の徹底。	自転車通学者集会、交通安全講話等を持ち、交通安全の徹底を図る。

		目 標	目標達成のための手立て
図書・視聴覚部	1	館内の雰囲気づくりと、読書意欲の昂揚を図る。	新入生オリエンテーション、作品展、資料展を実施し、図書館の案内と利用促進に努める。
	2	学習活動と直結した図書館づくりを心がける。	読書感想文・感想画コンクールの取りまとめを行う。生徒作品集『綾』を発行する。
	3	図書館活動や、新刊、資料などに関する広報活動の充実を図る。	図書委員を中心に図書館だより『埋み火』を発行し、読書活動の活性化を推進する。
	4	視聴覚に関する施設設備を充実させ、利用を促進する。	関係部署との連携を密にしながら、行事における放送機器の準備と設営を行う。
	5	優れた芸術を実際に鑑賞する機会を設け、豊かな感受性を育む。	芸術鑑賞会を実施する。R6年度は那覇文化芸術劇場なは一とにて、ミュージカルを鑑賞予定。
保健美化部	1	校内の環境整備・美化活動を通し、心身共に健康な学校生活を実現する。	(1) 校内環境を整え、生徒職員の学校生活における安全、安心を図る。 (2) 清掃活動を通して生活環境への意識の向上を図る。ゴミの分別や分担区の清掃の徹底を図る。
	2	支援を要する生徒に対する早期発見及び、理解と対応についての連携を図る。	(1) HR担任や教科担任、養護教諭、教育相談担当、スクールカウンセラー、保護者との連携の下に、問題を抱える生徒への支援に努める。 (2) 教育相談・特別支援教育を通して、生徒理解・支援に努める。
	4	心身の健康の保持増進を目指し、自己管理能力の育成を図る。	(1) 健康診断の完全実施と事後指導を徹底する。
			(2) 健康相談活動を充実する。
(3) 感染症対策を徹底する。			
(4) 救急体制を整備する。			
(5) 環境衛生検査の完全実施・衛生管理を充実する。			
(6) 広報活動・講演会等による健康教育を充実する。			
(7) 災害共済給付申請業務の円滑に実施する。			
(8) 学校保健組織活動を推進する。			
システム管理部	1	校務処理環境の整備	各種機器や各種ツールの保守、安全運用に努める。
	2	校務支援システム及び、学校Webページの円滑運営	学校ホームページの円滑活用に努める。
	3	職員の情報活用能力の向上	校内研修や広報により、情報提供および技術伝達に努める。
	4	個人情報保護の徹底	情報セキュリティの意識向上をはかり、情報保護に努める。
	5	ICT教育環境の整備	無線LAN、電子黒板及び1人1台端末を活用した授業に向けた環境整備に努める。
事務部	1	教育環境の整備、施設の安全管理に努める。	危険箇所を把握して、修繕や修理等対応を迅速に行う。
	2	予算の効率的・効果的な執行に努める。	(1) 各部、各科、学年に管理箇所の状況報告の手立てを作成する。
			(2) 予算配分を検討して各部、教科と連携をして整備を進める。
3	資質の向上に努め、学校運営に寄与する。	丁寧な来客対応や電話対応を心がけて地域との連携を進めていく。	

目 標		目標達成のための手立て	
1 学年	凡事徹底：基本的な生活習慣を確立し、高い学力と豊かな心の養成・自主性の育成に努める		
	1	高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣の確立を図る。	三点固定（起床時間、学習時間、就寝時間）を定着させるとともに、日々の清掃、教室の机や棚の整理整頓など、学習環境整備を徹底させる。
	2	ルール・マナーを守る生徒の育成を図る。	生徒指導部と連携し、身なりやスマートフォン等の使用マナー、遅刻指導などを徹底する。
	3	学力向上を目指し、学習活動を支援する。	進路指導部と連携し、城岳手帳や進路指導に関する資料の有効活用を促し、学習習慣の確立を支援する。
2 学年	中堅学年としての責任を自覚させ、基本的な生活習慣の確立と基礎学力の向上を図る。		学年会、各部、保護者と連携を取りながら下記の事項を実践する。
	1	基本的な生活習慣を確立させ、自律した生徒を育成する。	(1) 三点固定を維持することで自己管理能力を身につけさせる。
			(2) 日々の清掃活動や私物の整理整頓を徹底することで学習環境を整えさせる。
			(3) ルールやマナーを守り、ホームルーム活動や学校行事、部活動等とおして下級生に範を示させる。
	2	主体的な学習態度を養い、基礎学力の向上を図る。	(1) 予習・授業・復習の学習サイクルを奨励し、日々の授業を大切に する姿勢を育む。
			(2) 城岳手帳や進路に関する資料の有効活用を促すことで学習習慣の 確立を支援する。
(3) 課外講座やスタディ・サプリに主体的に取り組むことで基礎基本 を徹底させる。			
3	進路希望を明確にし、その実現のために 学び続ける生徒を育てる。	(1) 進路適性検査や第一志望届などに取り組むことで具体的な進路目 標を早期に設定させる。	
		(2) 模擬試験に計画的に取り組ませ、結果について適切なフィード バックを行う。	
		(3) 個人面談等とおして進路希望先についての自己分析の支援を行 う。	
3 学年	最終学年としての自覚を持たせ、自己教育力を育てる。		
	1	進路実現に向けて、最後まで粘り強く取 り組む姿勢を育む。	(1) 学年会（毎週火曜日）で各ホームルーム間の情報交換を図る。
			(2) 進路部との連携を密にしながら、進路指導を円滑に行う。
			(3) LHR、総合探究、進路検討会、個人面談、三者面談等とおして、 進路指導の充実を図る。
			(4) 入試科目等を基軸に、具体的かつ実行可能な進路計画を早期に立 てさせ、定期的にフィードバックを行う。
	2	基本的な生活習慣を定着させ、規律ある生 活態度を確立する。	(1) 遅刻や無届欠課、無届欠席をなくすために、保護者と連携した指 導を徹底する。
(2) 身なり及びマナー指導、清掃及び整理整頓の指導を徹底する。			
(3) 時間・期日厳守の指導を徹底する。			
3	自主・自立につながる学習スタイルを確 立させる。	(1) 日々の授業を最後まで真剣に取り組む姿勢を育てる。	
		(2) 生徒の学力と学習状況の実態把握のために、教科担任と連携を密 にする。	
		(3) 講座の受講や校内模試・対外模試の受験、同窓会自習室の活用 等、進路実現に向けた積極的な取り組みを促す。	
		(4) 定期考査及び模試の振り返りや分析を促し、弱点補強を徹底させ る。	

※成年年齢に達した生徒について

生徒が成年年齢に達しても、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指し、保護者等との連携を図りながら生徒指導・進路指導を行う。

		目 標	目標達成のための手立て
国語科	1	大学共通テストに対応する基礎基本の定着	(1) 定期的に単語テスト等の小テストを実施する。 (2) 長期休みに問題集などの課題をさせる。 (3) 模擬試験の分析及び誤答レポートの作成を課すことで、学力向上につなげる。 (4) 講座を実施し、苦手分野の克服につなげる。 (5) 定期テストにおいて、応用問題として大学共通テストに対応した問題を出题する。
	2	言語活動の充実	弁論大会、百人一首大会、読書感想文や創作文のコンクールへの応募などを通して、生徒の言語表現の力を高める。
	3	生徒が自主的に学びに向かう姿勢を育む授業実践	各単元の中心的な問いを設定・提示し、その問いについて生徒が考えを深め、自身のことと関連付けながら学習をすすめるような授業づくりを行う。
地歴公民科	1	基本的学習内容を定着させる	単元ごとの小テスト導入や教材研究の充実をはかり、基礎力をつける。
	2	受験指導や講座の充実	生徒の進路に応じた夏期講座・定期講座・個別指導などを開設する。
	3	成年年齢引き上げに伴う諸問題の理解及び主権者教育の充実を図る	成年及び主権者としての意識を高めるための取り組みを充実させる。
	4	ICT教材の活用	理解度を深めるため、タブレット・プロジェクターDVD・写真・地図などを活用する。
	5	大学入試制度に対応した教科指導の充実	大学入試制度に対応した教科指導、授業実践について研究し、教科で情報共有する。
数学科	1	数学における基本的概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し、処理する能力を高める。	(1) 日々の授業の復習サイクルを定着させるために章末テスト等を活用し自己調整力の向上を図る。 (2) 国公立大学の個別試験に対応するために記述式設問を定期考査等に導入する。
	2	数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。	(1) 教材研究の勉強会を教科内で随時開催し、傾向と対策のパターン学習に固執することなく、初見問題に対応できるだけの基礎・基本の充実を図る。 (2) 生徒の実態及びニーズに応じた講座の開設。 (3) 模試を分析し、生徒の学力向上の資料として活用する。
理科	1	科学現象に対する思考力・表現力の育成	探究心を引き出し、授業へ積極的に参加できるような授業展開の工夫と研究
	2	進路指導の充実	生徒の実態に応じた講座の開設や模擬試験の分析、過去問の提供・解説等を行い、大学入学共通テストや二次試験に対応できる確かな学力の涵養
	3	家庭学習・自主学習の確立	主体的な学習になるような課題、宿題の出题方法の工夫と研究

		目 標	目標達成のための手立て
保健体育科	1	規律や礼儀を重んずる態度の育成	グループ活動を通して、協力する姿勢や集合整列への取組みの強化を図る。
	2	基礎体力の向上	新体力テスト等を活用し、自己の体力の状況を振り返り、補助・補強運動を取り入れる。
	3	健康・安全の指導強化	自己の健康について理解を深め、安全に留意して運動に取り組む能力を身につけさせる。
	4	主体的に企画・運営を实践できる資質・能力の育成	実践活動や運営での役割意識を持たせ、リーダーを中心に協力し合う資質・能力を育成する。
芸術科	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。		
	1	芸術に関する各科目の特性について理解させ、意図に基づいて表現するための技能を身に付けさせる。	各科目の特性を踏まえた課題の理解と、技能を高め、全員が表現や制作物を完成できるように取り組ませる。又は技能習得を目指す。
	2	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わうことができるような授業改善を行う。	様々な表現活動に取り組ませ、授業や夏休みの課題で制作した作品をコンクールへ応募する機会を持つ。
	3	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を深め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	芸術を愛好する心情を育む一助として芸術合同発表会を開催する。
英語科	1	五つの領域を総合的に扱い、英語力の向上を図る。	授業を実際のコミュニケーションの場とし、複数領域を結びつけた統合的な言語活動を行う。
	2	言語活動を充実させ、コミュニケーション能力の育成を図る。	(1) パフォーマンス課題やパフォーマンステスト、語彙テスト等を実施する。 (2) 校内スピーチコンテスト及び校内スキットコンテストを実施する。
	3	「指導と評価の一体化」を図る。	観点別評価の評価規準を検討し、単元ごとに評価基準の設定を行う。
家庭科	1	生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。	実習を通して、技術を身につけるとともに、各内容ごとの調べ学習などを適宜実施する。
	2	様々な人々と協働し、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	家庭クラブ活動の充実向上（家庭・地域との連携） グループでの共同作業
	3	ICTを活用しわかりやすい授業・実習を实践する。	教材・教具の製作及び効果的活用 一人一台端末の効果的な活用
情報科	1	コミュニケーション力を高める授業内容の充実と指導方法の研究。	情報発信を的確に行う事を意識した授業の展開
	2	情報活用に関する基本的な知識・技術の定着を図る。	課題や実技テスト等を利用し、情報活用の基礎的・基本的知識・技能の定着を図る。
	3	情報モラルの向上と定着を図る。	情報化社会の課題や問題点を適時提示し、意識づける。